

## 4 . 地域公共交通の課題

## 目次

4. 地域公共交通の課題.....	1
4-1. 阿佐東地域全体における公共交通の課題.....	1
4-1-1. 鉄道（JR 牟岐線・阿佐東線）に関して.....	1
4-1-2. 阿佐東線に関して.....	1
4-1-3. 路線バスに関して.....	2
4-1-4. 交通空白地帯に関して.....	2
4-1-5. 交通機関相互の連携に関して.....	5
4-1-6. 出羽島航路に関して.....	6
4-2. 各町の課題.....	7
4-2-1. 美波町の課題.....	7
4-2-2. 牟岐町の課題.....	9
4-2-3. 海陽町の課題.....	13
4-2-4. 東洋町の課題.....	16
4-3. 観光に関して.....	22



## 4. 地域公共交通の課題

### 4-1. 阿佐東地域全体における公共交通の課題

#### 4-1-1. 鉄道（JR 牟岐線・阿佐東線）に関して

鉄道事業者の利用者統計によると、JR 牟岐線の見能林駅以南における利用者は、平成 8 年度に約 100 万人あったものが、平成 19 年度には約 62 万人まで減少している。

今回のアンケート結果によると、利用している人の割合は 30.9%であり、その多くが、阿南市や徳島市方面への遠距離移動の回答であった。

利用目的については、「通院」（56.9%）の割合が一番高く、続いて「買物」（19.6%）、「趣味・旅行」（18.2%）の順番であった。

また利用しなくなる理由は、「家から駅、駅から目的地までの移動がづらくなってきた」（32.0%）、「駅の施設の利用がづらくなってきた」（23.0%）の回答が多くあり、このことから、高齢化が急速に進むこの地域において、今後の利用者の増加を図るためには、高齢者に優しい「移動手段の確保」とともに、「駅施設等の整備・改善」についても、どのようなものが可能であるかが検討課題となり、また、ワークショップ等において、通学時間への配慮や、増便、車両へのトイレの設置、料金の値下げ等の要望が出された。



甲浦駅（東洋町）



海部駅（海陽町）

#### 4-1-2. 阿佐東線に関して

特に、阿佐東線については、全戸アンケートの設問にあるとおり、開業以来、毎年利用者数が減少しており、運行に必要な費用が運賃収入でまかなえないことから、運営基金等から経常損失額（赤字）の補填をしているが、現状のままでは、平成 23 年度には基金が底をつく現状である。

このため、今回、「今後の阿佐東線のあり方」について住民アンケートの結果、「阿佐東線は必要だから、公的資金や地域住民の支援によって維持すべき」が 28.5%、「行政（県・町）における検討結果による」が 25.9%、「現在及び将来において、経営が不可能と判断する」が 42.2%となり、「経営が不可能と判断する」が一番多い回答となった。

しかし、このアンケートの集計を非高齢者（65 歳未満）と高齢者（65 歳以上）で分析すると、高齢者の回答では、「維持すべき」との比率が高くなる傾向となり、阿佐東地域公共交通懇話会で、アンケート結果及び阿佐海岸鉄道の経営状況について、十分に検討した結果、今後の高齢化の進展や地域づくりの観点から「存続すべき」との結論に達した。

今後、阿佐東線が「地域住民の生活の足」として、地域住民や関係機関の理解を得て、住民も一緒になった路線維持の取り組みが急がれる。

#### 4-1-3. 路線バスに関して

住民が利用する最も身近な公共交通である路線バスは、高齢者の通院目的や駅までの移動手段などとして利用されている。

平成10年頃には約20万人程度の利用（海部郡分のみ）があったが、現在では10万人程度まで減少し、交通事業者の経営も厳しくなっていることから、公的資金等で、運行に必要な費用の一部を賄ってきている。

このため、路線の維持について問いかけをした結果、63.3%の方が、「路線バスは必要だから、公的資金や地域住民の支援等によって維持すべき」と回答し、自身は利用していなくとも、将来的には必要な交通手段として支持されている。

しかし、高齢化が進むなか、今後バスを利用しなくなる理由として、「バス停までの移動が困難になる」が各町において一番多く、「家からバス停までのアクセス方法」や「バス停など施設面での改良」の検討が必要。

また、現在の路線定期運行型では、すべての居住エリアをカバーできず、交通空白地帯の解消や利用者の利便性を図るためにも、新たな「運行方式」の検討も必要である。

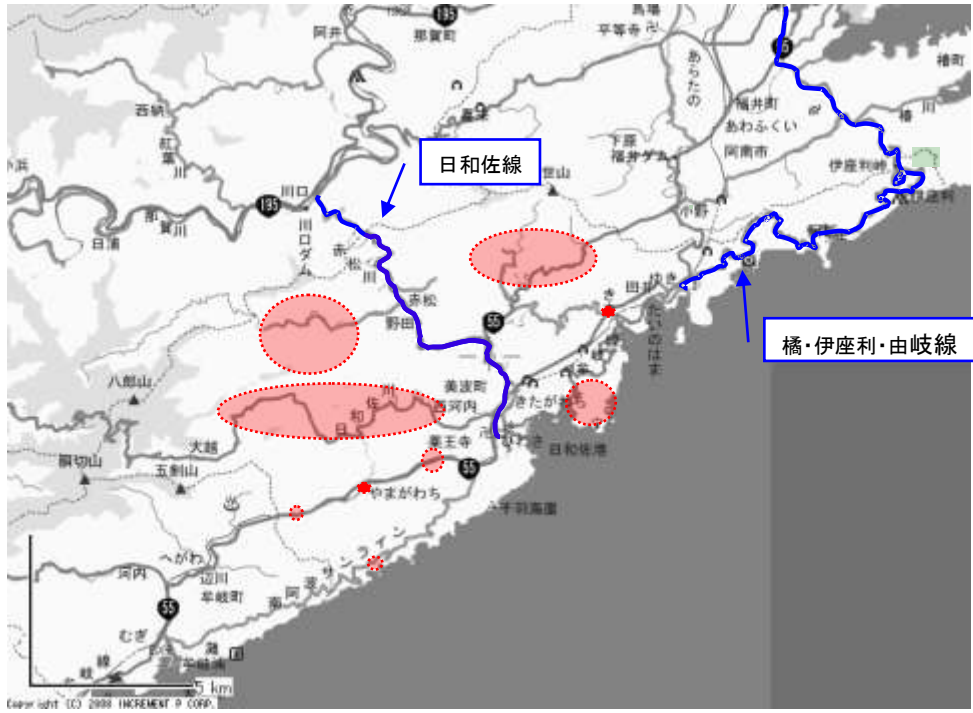
#### 4-1-4. 交通空白地帯に関して

路線バスは主要道路の起終点を線で結ぶ運行を行うため、路線経路から遠く、バスを利用できない地域は必ず発生し、山間部に点在する集落には、停留所から2km以上離れ、バスの利用がほとんど不可能となっている箇所も数多く存在している。

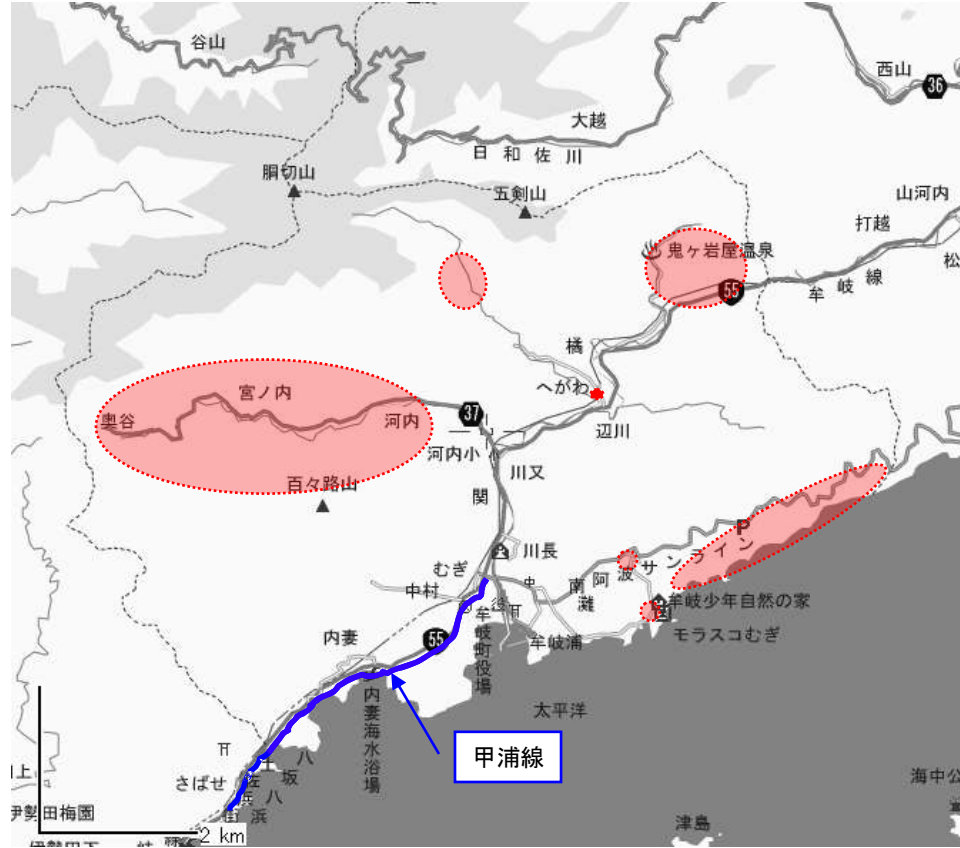
更に、高齢化が進んだ特に山間部においては、停留所から数百メートル離れると、バスの利用頻度が極端に落ちることから、この間（停留所から数百メートルから2kmの間）は「交通不便地帯」であることの認識が必要であり、交通空白地帯に準じた対応が求められている。

※凡例： 交通空白地帯： 

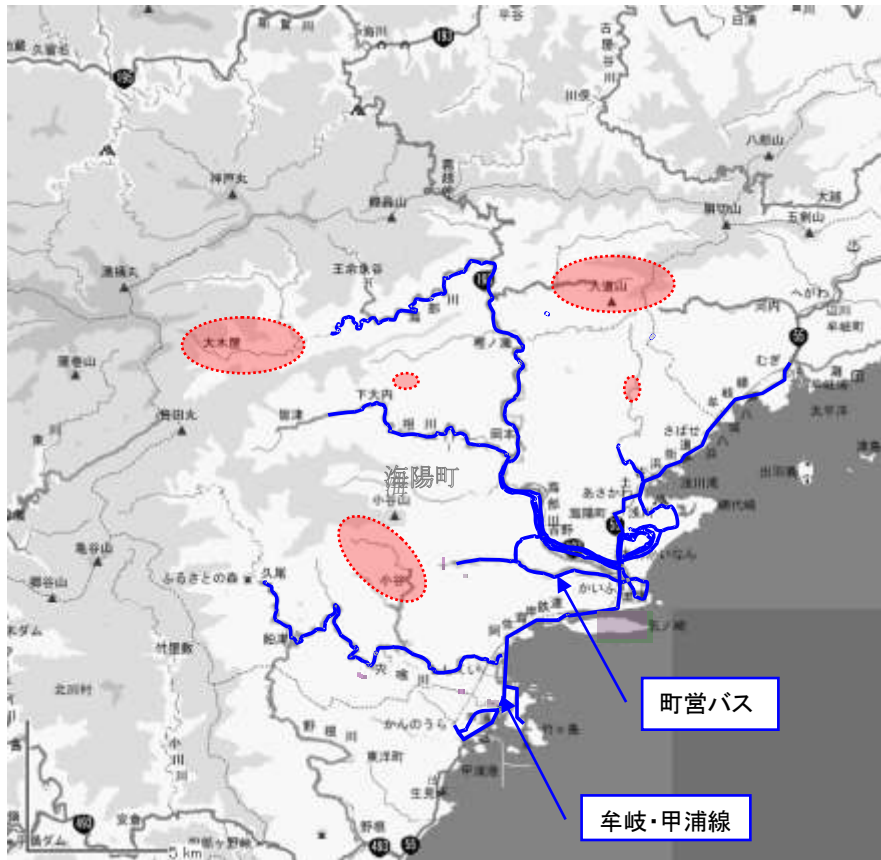
美波町交通空白地帯



牟岐町交通空白地帯



海陽町交通空白地帯



東洋町交通空白地帯



#### 4-1-5. 交通機関相互の連携に関して

例えば、徳島バス阿南の橘・伊座利・阿部・由岐線と JR 牟岐線では、バスと列車の乗り継ぎが、上り列車では接続しているが、下り列車では接続がうまくできていない例があり、徳島バス南部の日和佐線と JR 牟岐線などにおいても、同様の事例が存在する。

また、JR 牟岐線・阿佐東線と徳島バス南部の甲浦線が、ほぼ並行して走り、競合関係となっている。

これらの問題については、関係機関同士が連携を密にし、地域住民の生活の足として、互いに存続していくことはもちろん、よい利便性の高いサービスを提供していくことが求められる。

#### ●由岐駅発着の JR 牟岐線との連絡

路線バス由岐駅前到着時刻			JR牟岐線乗り継ぎ列車	
(発地時間)	着地時間		牟岐方面へ	徳島方面へ
橘営業所 5:10	由岐駅前 7:00	→	× 8:20(海)	7:03(徳)
伊座利 8:10	由岐駅前 8:58	→	× 10:59(牟)	9:04(徳)
伊座利 14:20	由岐駅前 15:08	→	× 16:42(海)	15:44(鳴)
阿部 17:20	由岐駅前 17:50	→	× 18:57(海)	18:00(徳)

(海)海部 (牟)牟岐 (徳)徳島 (鳴)鳴門

JR牟岐線由岐駅到着時刻		路線バス由岐駅前発車時刻		
牟岐方面から	徳島方面から		発地時間	(着地時間)
7:03	6:59	→	由岐駅前 7:15	伊座利 8:03
12:34	12:05	×	由岐駅前 12:45	伊座利 13:33
16:41	16:42	→	由岐駅前 16:45	阿部 17:15
18:08	17:41	→	由岐駅前 18:12	橘営業所 19:30

#### ●日和佐駅発着の JR 牟岐線との連絡

路線バス日和佐駅前発車時刻			JR牟岐線乗り継ぎ列車	
(川口発)	日和佐駅前着		牟岐方面へ	徳島方面へ
6:50	7:21	→	× 8:50(海)	× 8:51(徳)
9:05	9:36	→	× 11:13(牟)	× 10:45(徳)
11:45	12:16	→	× 14:24(海)	12:21(鳴)
15:20	15:51	→	× -	16:28(徳)
17:00	17:31	→	17:54(牟)	17:54(徳)

(海)海部 (牟)牟岐 (徳)徳島

JR牟岐線日和佐駅到着時刻				
牟岐方面から	徳島方面から		日和佐駅前発	(川口着)
7:15	7:22	→	7:35	8:06
10:45	8:50	×	11:05	11:36
12:21	12:21	→	12:30	13:01
15:24	15:52	→	16:20	16:51
11/1~4/7 × 17:00	11/1~4/7 17:41	→	11/1~4/7 17:45	18:16
4/8~10/31 17:54	4/8~10/31 17:54	→	4/8~10/31 18:00	18:31

\* × : 接続が良くない便



#### 4-1-6. 出羽島航路に関して

出羽島航路は、徳島県に2つある離島航路の1つで、出羽島では現在、約125名の住民が生活し、高齢化率は65.3%で、アマダイなどの漁業が主な産業。

運営するのは、出羽島連絡事業有限会社で、1日に6往復し、年間約25,000人を運んでいるが、年間約1,500万円の赤字を計上しており、国と県、町において赤字補填をしている。

高齢化が進む出羽島では、今後、観光交流による地域の活性化が大きな課題であり、このため、この航路においては、観光を目的とする島外からの観光客の利便性に配慮する必要があるとともに、住民の生活の足でもあることから、JR牟岐線との接続等が、今後の課題としてあげられる。

出羽島発	牟岐港着	乗継	徳島方面へ	海部方面へ
6:30	6:45	6:55	× 6:53 × 特急 7:50	7:08
7:25	7:40	7:50	特急 7:50 × 8:25	× 7:46 × 9:18
9:00	9:15	9:25	× 10:20	× 11:03
12:20	12:35	12:45	特急 12:51 × 13:25	12:54
15:00	15:15	15:25	× 16:06	× 16:08
16:35	16:50	17:00	17:31	× 17:38

海部方面から	徳島方面から	乗継	牟岐港発	出羽島発
6:51	-	(10分)	7:00	7:15
7:45	7:43	(10分)	8:20	8:35
× 9:58	× 9:11	(10分)	11:00	11:15
× 12:47	× 12:42	(10分)	13:30	13:45
× 13:33	15:42	(10分)	16:00	16:15
16:44	× 15:42 × 特急 16:06	(10分) (10分)	17:20	17:35

\* × : 接続が良くない便



出羽島（牟岐町）

## 4-2. 各町の課題

阿佐東地域全体における公共交通の課題のベースとなった、4町の課題は次のとおりである。

なお、これらの課題は、地域特性や既存公共交通機関の現状、今回のアンケート調査、ワークショップの結果等を踏まえ、整理した。

### 4-2-1. 美波町の課題

「買物」や「通院」の移動動線図から、町内での移動が主である一方、阿南市方面や牟岐町方面への移動も少なくないことがわかる。

このため、美波町では、公共交通機関により、町内の移動と同様に町外への移動を確保することが、重要な課題であると言える。

#### 1) 鉄道（JR牟岐線・阿佐東線）について

美波町から町外へ移動する主要な公共交通機関が、JR牟岐線。

美波町の鉄道利用者の割合は、阿佐東地域4町の中で最も高く、また、鉄道利用の頻度についても、他町に比べて高いという結果がでており、住民の足として重要。

##### ①JR線の増便及び時間短縮、特急料金の値下げ

特に、ワークショップやアンケートの自由記載欄を通じて、鉄道の利便性の向上を求める声が他町に比べて多かったのが、美波町の特徴。

JR牟岐線は、阿南駅以北に比べ、阿南駅以南の運行本数が少ないため、JRの増便を望む声が多く寄せられた。

同時に、特に徳島市方面への移動の時間短縮を望む意見も多く寄せられた。

さらに、時間短縮のためには特急に乗らざるを得ないことから、特急料金の値下げについても、多くの要望があった。

#### 2) バスに関する課題

美波町では、鉄道とは逆に、路線バスの利用者の割合が4町の中で最も少ない、という結果であった。

これは、美波町で運行されている路線バスが、JRの駅から離れた集落と駅とを結ぶ経路を主に走行しているため、そもそも沿線の人口が少ない、ということが原因であると考えられる。

##### ①バスの利便性の向上

美波町における現在の運行形態では、運行本数が少なく、バス停まで遠い、など路線バスを利用しにくい状況である。

このため、路線バスに対しては、車両の小型化や運行範囲の拡大、増便など、利用者の利便性を向上させるきめ細かな運行を望む声が多く寄せられた。

##### ②地域の実情にあった新たな公共交通の検討（乗合いタクシー過疎地有償運送など）

デマンド乗合いタクシーの導入を希望する回答の割合が高く、また、ワークショップやアンケートの自由記載欄を通じて、「地域の実情にあった新たな公共交通」を望む声の多かったことが、美波町の特徴といえる。

このため今後、「地域の実情にあった公共交通機関はどのようなものがあるか」の検討が必要である。

##### ③阿南市方面への増便

特に、具体的な要望として、旧由岐町（特に阿部・伊座利地区）から、美波町内の鉄道駅までの距離が遠いことから、阿南市（橘方面）への増便の要望が多く寄せられた。

### 3) その他の課題について

#### ①交通空白地帯に関する課題

美波町においては、鉄道駅から遠く、バス路線も運行していない、いわゆる交通空白地帯が存在している。

これらの地域において、路線バスの新規運行を求める声もあり、地域の実情にあった新たな公共交通の検討により、その解消を図っていくことが望まれる。

#### ②鉄道とバスの連携

アンケートにより、JR 牟岐線と路線バスの連携を求める要望が多く出された。

ただし、JR 牟岐線が単線であるため、上り線・下り線のどちらに対しても同じように接続を良くすることは困難で、バスの運行回数を増やす、あるいはバスの運行ダイヤの調整を行うことなど、今後、検討を行っていくことが必要となる。

1) 鉄道 (JR 牟岐線・阿佐東線) について

3-1-1. 公共交通に関するアンケート (全戸アンケート) 集計・分析結果

各町構成 (鉄道利用状況)

		問4. ①牟岐線・阿佐東線の利用状況					
上段: 度数	下段: %	合計	牟岐線を利用する	阿佐東線を利用する	いずれも利用しない	ほとんど利用しない	全く利用しない
合計		3570	830	83	183	1298	1176
		100.0	23.2	2.3	5.1	36.4	32.9
自治体	牟岐町	643	165	6	18	237	217
		100.0	25.7	0.9	2.8	36.9	33.7
	美波町	1191	432	1	6	394	358
		100.0	36.3	0.1	0.5	33.1	30.1
	海陽町	1429	207	51	118	555	498
	100.0	14.5	3.6	8.3	38.8	34.8	
東洋町	307	26	25	41	112	103	
	100.0	8.5	8.1	13.4	36.5	33.6	

①JR 線の増便及び時間短縮、特急料金の値下げ

3-1-1. 公共交通に関するアンケート (全戸アンケート) 集計・分析結果

各町構成 (鉄道利用促進策)

		問4. ⑩牟岐線・阿佐東線の利用促進策							
上段: 度数	下段: %	合計	甲浦から徳島までの直通便や快速便	運行速度を上げる	運賃を安くする	便数を増やす	各駅に無料駐車場を設ける	駅施設のバリアフリー化	その他
合計		2519	756	256	509	770	200	154	298
		100.0	30.0	10.2	20.2	30.6	7.9	6.1	11.8
自治体	牟岐町	443	106	61	98	140	35	21	51
		100.0	23.9	13.8	22.1	31.6	7.9	4.7	11.5
	美波町	793	170	77	151	331	65	22	115
		100.0	21.4	9.7	19.0	41.7	8.2	2.8	14.5
	海陽町	1053	372	109	227	259	81	64	114
	100.0	35.3	10.4	21.6	24.6	7.7	6.1	10.8	
東洋町	230	108	9	33	40	19	47	18	
	100.0	47.0	3.9	14.3	17.4	8.3	20.4	7.8	

3-1-1. 公共交通に関するアンケート (全戸アンケート) 自由記載欄より (抜粋)

J R 牟岐線も 1 時間に 1 本位は運行してほしい。
対向車輛との待ち合わせ時間が長すぎる。時間帯により 20 分も止まる車輛あり。
J R 牟岐線に、徳島にもう少し朝早く着く便、阿南→徳島間にある位の便数があれば、今すぐにでも利用したい。が、徳島に行く機会は多くはない。
海部郡 (県南部) の活性化のために、海部から徳島間を特急 (快速) で、1 時間で通勤、買物、観光等に利用しやすい運行ダイヤにすべきと思います。
J R 牟岐線を利用しますが本数が少なく (特に阿南～牟岐間) 案外不便です。
由岐～阿南間の J R の本数が少ないので不便。

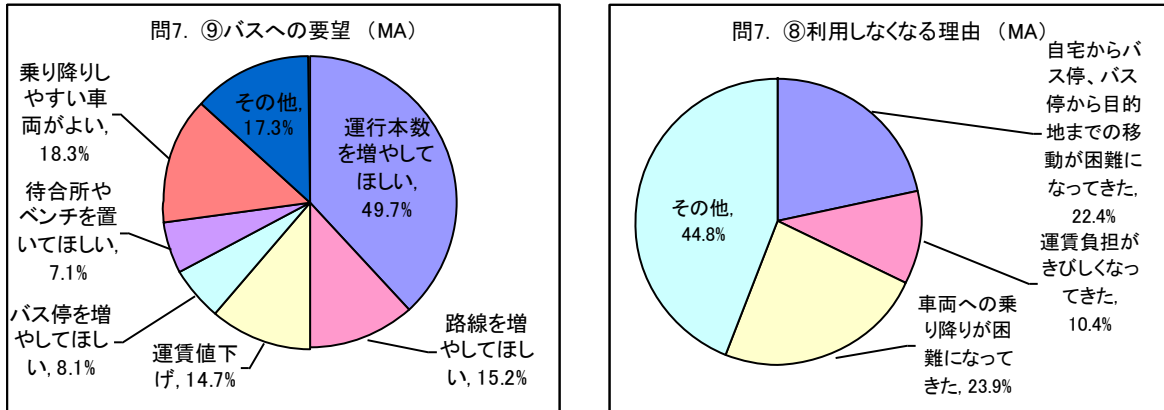
3-3. ワークショップより (抜粋)

日和佐	・列車便の回数増 (牟岐-日和佐)
	時間短縮と増便 徳島市までの J R の時間短縮 (約 1 時間) 便があれば、すぐにでも利用したい
由岐	増便 J R の便数を多くして欲しい、J R をせめて 1 時間に 1 本走らせてほしい
	願望 汽車の回数が少ないのでせめて 1 時間に 1 本位の運行を

2) バスに関する課題

①バスの利便性の向上

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果



②地域の実情にあった新たな公共交通の検討（乗合いタクシー過疎地有償運送など）討が必要である。

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）自由記載欄より（抜粋）

美波町内には鉄道の駅が5つあり、町内の自由な移動が可能なら町外への移動も便利である。 高齢者が主たる利用者となるためデマンドタクシーの様なものが便利で効率も良いと思われる。
高齢化がますます進みバス停や駅までの移動についても困難な方がこれまで以上に増えることが想定されますので家から目的地までを結ぶ新たな移動手段が良いと思います。上勝町で実施されている有償ボランティア輸送事業は参考になると思います。

3-3. ワークショップより（抜粋）

日和佐	乗合いタクシー的なものがほしい
	バス会社をやめて、町のバスで不便なところまで行ってほしい
	介護タクシーの運行 介護タクシーの利用、車椅子を乗車可能なバスの運行、乗合タクシーが必要
由岐	乗合タクシーの運行 乗合タクシーを町内の病院間だけでも 町内乗合タクシーの運行
	利用 乗合バスの運行 家の近くまで来てくれるバスの運行
	その他 タクシーを乗合いできるような仕組みがあれば

③阿南市方面への増便

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）問9⑧自由記載欄より（抜粋）

以前は1日1便だけ、徳バスが日和佐～徳島行がありましたが、それもなくなってしまいました。鉄道があっても、やっぱりバスも運行してほしいと、いつも願っています。小型のマイクロバスでも良いと思うので、ぜひバスも運行してほしい。日和佐～川口行きのバスは1日数便あるのに、何故阿南方面へ行くバスがないのでしょうか。
高齢者になるのは目前です。車の運転もしんどくバス利用が多くなると思う。 現在、病院・買物・銀行等は阿南市に行く。由岐へ行く時は、役場等に用事がある時だけが現状だ。「橋行き」が出来ることを切望する。便数は3～4回でも良い。由岐に出るのは不便で遠く、今の状態では、バスに乗る気はしない。橋行きが出来ると、客は増えるよ。

### 3-3. ワークショップより（抜粋）

昼間阿南市への乗り入れ

3) その他の課題について

②鉄道とバスの連携

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果

各町構成（路線バス利用促進策）

		問6. ④路線バスの利用促進策			
上段: 度数		合計	鉄道と連携する	住民の支援組織を作る	その他
下段: %					
	合計	2463	1516	518	472
		100.0	61.6	21.0	19.2
自治体	牟岐町	445	288	83	76
		100.0	64.7	18.7	17.1
	美波町	764	439	193	152
		100.0	57.5	25.3	19.9
	海陽町	1016	625	195	214
	100.0	61.5	19.2	21.1	
	東洋町	238	164	47	30
		100.0	68.9	19.7	12.6

#### 3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）自由記載欄より（抜粋）

待ち時間のロスタイムが大きくなネックになって利用に二の足を踏んでいます。交通機関の間がうまく連動していないような気がします。

### 3-3. ワークショップより（抜粋）

鉄道駅への接続の利便性向上

バスも、汽車の時間に間に合うように、してほしい

#### 4-2-2. 牟岐町の課題

牟岐町での「買物」や「通院」の人の流れを見ると、ほぼ町内の移動により完結しているのが特徴。

このため、牟岐町の公共交通機関は、町内の移動を確保することが重要な課題である。

##### 1) 鉄道についての課題

全体として、鉄道の利用頻度はあまり高くはないが、美波町や阿南市方面へ直行するバス路線が無いこと、通学を中心とした海陽町方面への移動の需要が高いことなどから、町外への移動手段としての鉄道の重要性は高いと言える。

##### ①JRの利便性の向上など（JRの増便、時間短縮、車内トイレの設置、通学にあわせたダイヤ、料金の値下げ）

JRの増便、時間短縮については、美波町と同様、アンケート結果などを通じて多くの要望が寄せられた。

また、料金（特に特急料金）の値下げを望む声もあった。

特に、牟岐町の特徴としては、徳島市方面への移動に時間がかかるため、車内トイレの設置を求める声が多く、また、通学の鉄道利用者が多いため、学校生活に対応したダイヤ編成や増便を求める要望も寄せられた。

##### 2) 路線バスについての課題

路線バスは、鉄道と同様、利用者が多いとはいえないが、海陽町方面への町外移動のための主要な移動手段となっている。

##### ①バスの利便性の向上（待合所やベンチの整備、乗り降りしやすい車両、バス停の増設・自由昇降区間の設置）

現在運行されている路線バスは、高齢者が利用の中心であるため、高齢者が利用しやすい施設（車両）の整備やバス停の増設、また、「自由乗降にしてほしい。」という要望なども寄せられている。

##### ②乗り合いタクシーの導入、（さらには、過疎地有償運送やスクールバス等既存資源の有効利用による交通空白地帯の解消）

牟岐町は、4町の中で最も乗り合いタクシーの導入を希望する回答者の割合が高い、という結果となった。

これは、牟岐町内で運行されている鉄道や路線バスが、主に町外移動のための公共交通機関として使われている一方で、町域がコンパクトであることから、町内移動のための公共交通機関の整備が十分でないため、と考えられる。

また、「地域の実情にあった公共交通機関」の整備を望む声も多く、例えば、「スクールバス等に高齢者を同乗させてほしい。」や「地域内巡回バスを運行してほしい。」などの意見もでた。

##### 3) その他の課題について

##### ①出羽島航路

出羽島航路は、出羽島と本土を結ぶ唯一の交通機関であり、島民にとっては生命線とも言える交通手段。

しかし、出羽島航路のダイヤとJR牟岐線が連絡していないため、改善の要望が多く出されている。

1) 鉄道についての課題

①JRの利便性の向上など（JRの増便、時間短縮、車内トイレの設置、通学にあわせたダイヤ、料金の値下げ）

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果

各町構成（鉄道利用促進策）		問4. ⑩牟岐線・阿佐東線の利用促進策							
上段: 度数	合計	甲浦から徳島までの直通便や快速便	運行速度を上げる	運賃を安くする	便数を増やす	各駅に無料駐車場を設ける	駅施設のバリアフリー化	その他	
下段: %									
合計	2519	756	256	509	770	200	154	298	
	100.0	30.0	10.2	20.2	30.6	7.9	6.1	11.8	
牟岐町	443	106	61	98	140	35	21	51	
	100.0	23.9	13.8	22.1	31.6	7.9	4.7	11.5	
美波町	793	170	77	151	331	65	22	115	
	100.0	21.4	9.7	19.0	41.7	8.2	2.8	14.5	
海陽町	1053	372	109	227	259	81	64	114	
	100.0	35.3	10.4	21.6	24.6	7.7	6.1	10.8	
東洋町	230	108	9	33	40	19	47	18	
	100.0	47.0	3.9	14.3	17.4	8.3	20.4	7.8	

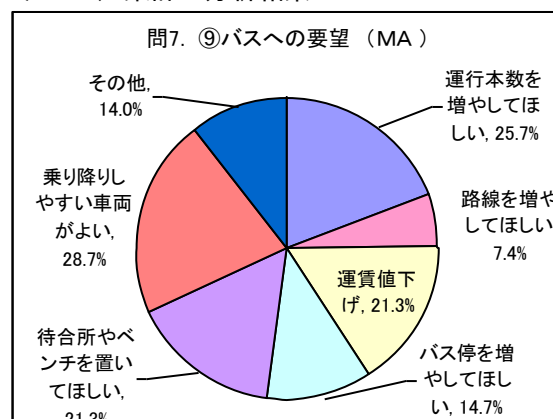
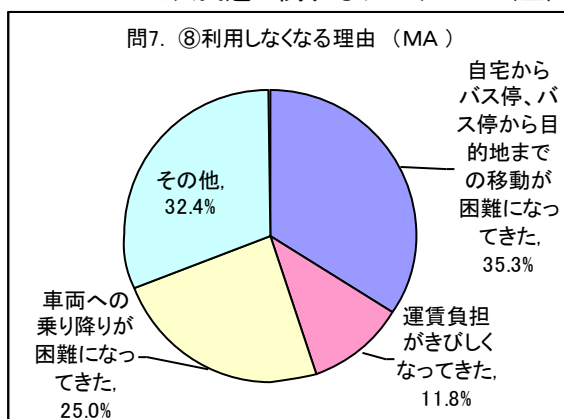
3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）自由記載欄より（抜粋）	
	トイレのないのは一番困る
	JR牟岐線運賃を下げ運行時間を短縮してほしい。
	徳島～牟岐までの特急利用経費が高すぎて度々とは利用できない。普通便では所要時間がかかり不便、いかに利用者を増やし料金が安くなるようお願いしたい。
	牟岐線について ①：時間がかかりすぎる（速度が遅い）。 ②：便数が少なく不便である。 ③：特急券の運賃が高い。

3-3. ワークショップより（抜粋）	
	トイレ付のバス、列車が良い
	急行列車を増やして欲しい
	遠乗りのとき弱るので、JRにトイレをつけて欲しい。付いてない車両もあるので
	鉄道では、海部高校の授業時間に合わせた運行時刻

2) 路線バスについての課題

①バスの利便性の向上（待合所やベンチの整備、乗り降りしやすい車両、バス停の増設・自由昇降区間の設置）

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果





3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）自由記載欄より（抜粋）	
	バスの停留所のない所でも手を上げたら止めてくれるようにしてもらえたらいいと思います。

3-3. ワークショップより（抜粋）	
	トイレ付のバス、列車が良い
	急行列車を増やして欲しい
	遠乗りのとき弱るので、JRにトイレをつけて欲しい。付いてない車両もあるので
	鉄道では、海部高校の授業時間に合わせた運行時刻

②乗り合いタクシーの導入、（さらには、過疎地有償運送やスクールバス等既存資源の有効利用による交通空白地帯の解消）

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果

各町構成（利用したい運行方式）

	上段: 度数 下段: %	問8. 今後利用したい運行方式		
		合計	路線バス	デマンド（乗合） タクシー
	合計	2030	920	1110
		100.0	45.3	54.7
自治体	牟岐町	367	138	229
		100.0	37.6	62.4
	美波町	628	248	380
		100.0	39.5	60.5
	海陽町	867	442	425
	100.0	51.0	49.0	
	東洋町	168	92	76
	100.0	54.8	45.2	

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）問9⑧自由記載欄より（抜粋）	
	スクールバスは、子どもだけでなく、60才以上の地域の住民なら誰でも利用できるようにすれば、年寄りやデイスサービスに、子どもは学校に隔離され、日常的に世代間の交流が少いという現況を緩和できる。
	町内を定期的に回る、小型バス、ワゴン車等の交通機関手段が必要である。

3-3. ワークショップより（抜粋）	
	スクールバスに、大人も乗れるようにしてもらいたい
	町内無料の巡回バス
	駅から各地区への周回バスが欲しい
	牟岐町でも地域内循環バスの運行が出来たら

3) その他の課題について

①出羽島航路

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）問9⑧自由記載欄より（抜粋）	
	出羽島なので時間に不便、体の具合も悪いのでバスで買物と思ってもできない。

3-3. ワークショップより（抜粋）	
	離島航路の便数、又JRの便数も少ない事が有り、時間が合わない為、非常に困る

### 4-2-3. 海陽町の課題

海陽町では、「買物」のための移動は町内で完結しているが、「通院」では、牟岐町への町外移動も多く、町内移動のための公共交通機関の確保はもちろん、特に高齢者や病人に配慮した、町外移動のための公共交通機関の確保が重要な課題。

#### 1) 鉄道についての課題

海陽町は、阿佐東地域の4町において、最も鉄道の利用率が低くなっている。

しかし、鉄道利用の目的で一番多いのが通院で、学生を除いては、高齢者が中心となって鉄道を利用していることから、今後の高齢化の進展も見据え、その存続を図っていくことが重要である。

##### ①海部駅のバリアフリー化

JR 牟岐線と阿佐東線の駅である海部駅は、高架駅であるため、高齢者には利用しづらい駅となっている。

このため、高齢者にも利用しやすいバリアフリー化（エレベーターの設置等）について、多くの要望が寄せられている。

##### ②利用者を増やすためのイベントなどの取り組み

観光客などの利用者を増やすため、積極的な取り組みが必要であるとの意見が、ワークショップなどを通じて出された。

#### 2) 路線バスについての課題

海陽町の路線バスは、

- ・甲浦・牟岐間を運行する幹線的な、町外移動のためのバス路線
  - ・幹線的バス路線や鉄道駅までをつなぐ、支線的な町内移動のためのバス路線
- という二種類の路線に分けて考えることができる。

なお、海陽町においては、既存のバス路線がほぼ町内全域を網羅していることから、現在の路線バスの運行形態を維持したまま、利便性の向上を求める意見が多く出された。

##### ①バスの利便性の向上（バス路線の増便、待合所やベンチの整備、乗り降りしやすい車両、目的別バスの運行など）

アンケート等を通じ、バス施設等の改善や利便性の向上について、多くの要望が寄せられた。

また、例えば通院のために特化したバスなど、目的別バスの運行を希望する意見が、ワークショップや自由記載などで、出ている。

#### 3) その他の課題について

##### ①鉄道と路線バスとの連携

海陽町においては、鉄道と路線バスが並行して走行し、競合している区間が存在する。

それぞれが大いに地域の公共交通に貢献しているものの、公共交通機関の利用者が減少している現在の状況においては、互いに役割分担し、協力し合いながら利用者をふやしていくことが喫緊（きっきん）の課題となっている。

##### ②交通空白地帯等（駅・バス停へのアクセス、目的地へのアクセス）

「自宅から駅・バス停までの距離が遠くて使えない。」という意見や、「駅・バス停が商業施設・公共施設などから離れた場所にあるため、利用しづらい。」などという意見が、少なからず寄せられた。

1) 鉄道についての課題

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果

各町構成（鉄道利用状況）

		問4. ①牟岐線・阿佐東線の利用状況					
上段: 度数 下段: %	合計	牟岐線を利用する	阿佐東線を利用する	いずれも利用する	ほとんど利用しない	全く利用しない	
合計	3570 100.0	830 23.2	83 2.3	183 5.1	1298 36.4	1176 32.9	
自治体	牟岐町	643 100.0	165 25.7	6 0.9	18 2.8	237 36.9	217 33.7
	美波町	1191 100.0	432 36.3	1 0.1	6 0.5	394 33.1	358 30.1
	海陽町	1429 100.0	207 14.5	51 3.6	118 8.3	555 38.8	498 34.8
	東洋町	307 100.0	26 8.5	25 8.1	41 13.4	112 36.5	103 33.6

各町構成（鉄道利用目的）

		問4. ②利用目的									
上段: 度数 下段: %	合計	買物	通院	通園・通学	通勤	公共施設	金融機関	外食	趣味・旅行	その他	
合計	1197 100.0	235 19.6	678 56.6	29 2.4	18 1.5	33 2.8	18 1.5	16 1.3	222 18.5	173 14.5	
自治体	牟岐町	211 100.0	41 19.4	84 39.8	10 4.7	5 2.4	3 1.4	2 0.9	1 0.5	53 25.1	49 23.2
	美波町	456 100.0	120 26.3	259 56.8	12 2.6	5 1.1	12 2.6	8 1.8	9 2.0	66 14.5	67 14.7
	海陽町	416 100.0	54 13.0	249 59.9	6 1.4	7 1.7	17 4.1	8 1.9	6 1.4	86 20.7	49 11.8
	東洋町	114 100.0	20 17.5	86 75.4	1 0.9	1 0.9	1 0.9	-	-	17 14.9	8 7.0

①海部駅のバリアフリー化

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果

各町構成（利用しなくなる理由）

		問4. ⑧利用しなくなる理由				
上段: 度数 下段: %	合計	家から駅、駅から目的地までの移動	駅への荷物（階段等）の移動が負担	駅の施設（階段等）の利用が困難	その他	
合計	248 100.0	80 32.3	29 11.7	59 23.8	94 37.9	
自治体	牟岐町	50 100.0	11 22.0	7 14.0	11 22.0	22 44.0
	美波町	86 100.0	30 34.9	12 14.0	14 16.3	36 41.9
	海陽町	84 100.0	28 33.3	8 9.5	21 25.0	30 35.7
	東洋町	28 100.0	11 39.3	2 7.1	13 46.4	6 21.4

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）自由記載欄より（抜粋）

- 海部駅にエレベーターを設置して下さい。階段の登りはキツイ。降りる時も、高所恐怖症で怖い。
- 海陽町海部駅はホームまで急な階段で障害のある自分にとってこわくて登ったり下がったりがとても危険を感じます。

3-3. ワークショップより（抜粋）	
施設改善	海部駅の階段が高いので、利用しやすいようになればと思います。 海部駅はエレベーターが必要 突喰の場合、駅の所在が不便と駅が高い

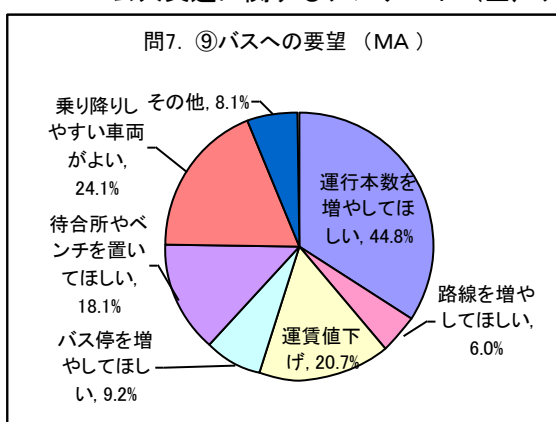
②利用者を増やすためのイベントなどの取り組み

3-3. ワークショップより（抜粋）	
	阿佐東線の路線維持、高知県までの循環目指す
	イベント列車などを走らす

2) 路線バスについての課題

①バスの利便性の向上（バス路線の増便、待合所やベンチの整備、乗り降りしやすい車両、目的別バスの運行など）

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果



3) その他の課題について

①鉄道と路線バスとの連携

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果

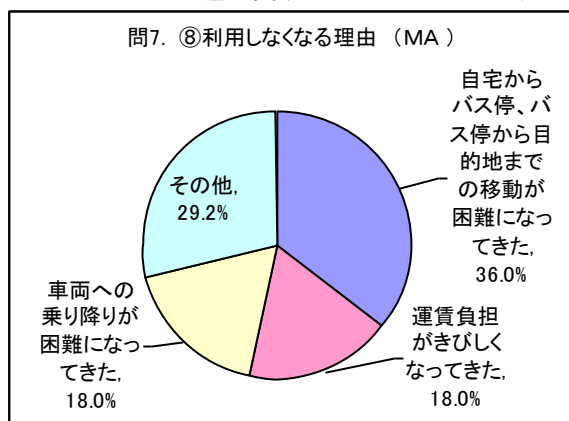
各町構成（路線バス利用促進策）

上段: 度数 下段: %		問6. ④路線バスの利用促進策			
		合計	鉄道と連携する	住民の支援組織を作る	その他
合計		2463	1516	518	472
		100.0	61.6	21.0	19.2
自治体	牟岐町	445	288	83	76
		100.0	64.7	18.7	17.1
	美波町	764	439	193	152
		100.0	57.5	25.3	19.9
	海陽町	1016	625	195	214
	100.0	61.5	19.2	21.1	
	東洋町	238	164	47	30
	100.0	68.9	19.7	12.6	

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）自由記載欄より（抜粋）	
	バスを利用してみたいが便数が少なすぎ、時間が気になる。 時間表、バス停をもっとわかりやすくすべき。鉄道との連携も考えた方がいいと思う。
	阿佐東線についてはバスの運行と連携して行くようにする事が合理化かと思われる。
	バスとJRとが連携できていれば移動がスムーズで問題ないと思います

②交通空白地帯等（駅・バス停へのアクセス、目的地へのアクセス）

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果



3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）自由記載欄より（抜粋）

<p>高齢者として。</p> <p>①バス停までの送迎方法、また徒歩の時間約10分程度で到着出来るような対策を考えて欲しい。</p> <p>②駅では年齢から考えると徒歩又は送迎方法が必要となる。時間の予約方法、必要な経費等について考えて欲しい。</p>
<p>駅やバス停に行くまで距離がある為、自転車か車でないと歩くには遠いので不便。</p>
<p>年を取ると一番に足が悪くなります。少しでも近くにバス停があればと以前から思います。</p>
<p>現在は近くには自転で行く事が出来るが、何年か先はどこへ行くのも徒歩になるし、駅、徳バス停も家から遠い為不便になる。</p>

3-3. ワークショップより（抜粋）

<p>運行 病院、公共施設巡り便</p> <p>病院行きの専用バスを作る。公共の場、直通</p>
<p>駅からの乗継 各駅から、スーパーや病院へ行くのが遠いので不便</p>

#### 4-2-4. 東洋町の課題

東洋町では、「買物」や「通院」のための町外への移動が極めて多く、他の3町とは異なる移動のパターンを示している。

このため、公共交通機関により町外への移動を確保することが、町内の移動を確保することと同様に、極めて重要となる。

また、同町は、4町の中で最も高齢化が進んでいることから、「どのような形であれ、公共交通機関の維持・存続が最大の課題である。」との切実な意見が、最も多く寄せられた。

##### 1) 鉄道についての課題

###### ①甲浦駅のバリアフリー化

東洋町においては、鉄道利用者の75%が通院を目的としている。

すなわち、高齢者・通院者が利用の中心であり、これら自分で運転が出来ない、または移動に不自由を強いられる人たちにとっては、鉄道は極めて重要な存在であり、そのような利用者にとって、高架駅である甲浦駅の階段の昇降は、鉄道利用者の大きな障害となっており、誰でも利用できるバリアフリー化について、検討が必要である。

###### ②乗り換え・乗り継ぎ

鉄道の主な利用者である高齢者等にとっては、海部駅での乗り換えや乗り継ぎのための移動が負担となっており、そのため、阿佐東線とJR牟岐線との相互乗り入れの検討が必要である。

###### ③料金の値下げ・料金体系の一本化

あわせて、初乗り料金を2度支払う必要があることから、面倒であることや、短い距離しか乗らないにもかかわらず、移動距離のわりには運賃が高い、などについて、改善要望が出ている。

##### 2) 路線バスについての課題

###### ①バスの利便性の向上など（増便、料金値下げ、目的地までのアクセスの改善・待合所やベンチの整備、目的地別のバスの運行など）

東洋町は、4町の中で最も路線バスの利用者の割合が多い、というアンケート結果となっている。

過疎化が進む東洋町においては、利便性向上のためにデマンド型乗合タクシーなどの各種の取り組みが必要であると、ワークショップで意見が寄せられた。

また、バス利用の中心が高齢者のため、病院施設や商業施設の近くに停留所を設置することにより、目的地までのアクセスを容易にしてほしい、という要望もあった。

1) 鉄道についての課題

①甲浦駅のバリアフリー化

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果

各町構成（鉄道利用目的）

		問4. ②利用目的									
上段: 度数	下段: %	合計	買物	通院	通園・通学	通勤	公共施設	金融機関	外食	趣味・旅行	その他
	合計	1197	235	678	29	18	33	18	16	222	173
		100.0	19.6	56.6	2.4	1.5	2.8	1.5	1.3	18.5	14.5
自治体	牟岐町	211	41	84	10	5	3	2	1	53	49
		100.0	19.4	39.8	4.7	2.4	1.4	0.9	0.5	25.1	23.2
	美波町	456	120	259	12	5	12	8	9	66	67
		100.0	26.3	56.8	2.6	1.1	2.6	1.8	2.0	14.5	14.7
	海陽町	416	54	249	6	7	17	8	6	86	49
	100.0	13.0	59.9	1.4	1.7	4.1	1.9	1.4	20.7	11.8	
	東洋町	114	20	86	1	1	1	-	-	17	8
		100.0	17.5	75.4	0.9	0.9	0.9	-	-	14.9	7.0

各町構成（利用しなくなる理由）

		問4. ⑧利用しなくなる理由				
上段: 度数	下段: %	合計	家から駅、駅から目的地までの移動	運賃の負担が大きくなった	駅の施設（階段等）の利用が難しくなった	その他
	合計	248	80	29	59	94
		100.0	32.3	11.7	23.8	37.9
自治体	牟岐町	50	11	7	11	22
		100.0	22.0	14.0	22.0	44.0
	美波町	86	30	12	14	36
		100.0	34.9	14.0	16.3	41.9
	海陽町	84	28	8	21	30
	100.0	33.3	9.5	25.0	35.7	
	東洋町	28	11	2	13	6
		100.0	39.3	7.1	46.4	21.4

②乗り換え・乗り継ぎ

③料金の値下げ・料金体系の一本化

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果

各町構成（鉄道利用促進策）

		問4. ⑩牟岐線・阿佐東線の利用促進策							
上段: 度数	下段: %	合計	甲浦から徳島までの直通便や快速便	運行速度を上げる	運賃を安くする	便数を増やす	各駅に無料駐車場を設ける	駅施設のバリアフリー化	その他
	合計	2519	756	256	509	770	200	154	298
		100.0	30.0	10.2	20.2	30.6	7.9	6.1	11.8
自治体	牟岐町	443	106	61	98	140	35	21	51
		100.0	23.9	13.8	22.1	31.6	7.9	4.7	11.5
	美波町	793	170	77	151	331	65	22	115
		100.0	21.4	9.7	19.0	41.7	8.2	2.8	14.5
	海陽町	1053	372	109	227	259	81	64	114
	100.0	35.3	10.4	21.6	24.6	7.7	6.1	10.8	
	東洋町	230	108	9	33	40	19	47	18
		100.0	47.0	3.9	14.3	17.4	8.3	20.4	7.8

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）自由記載欄より（抜粋）

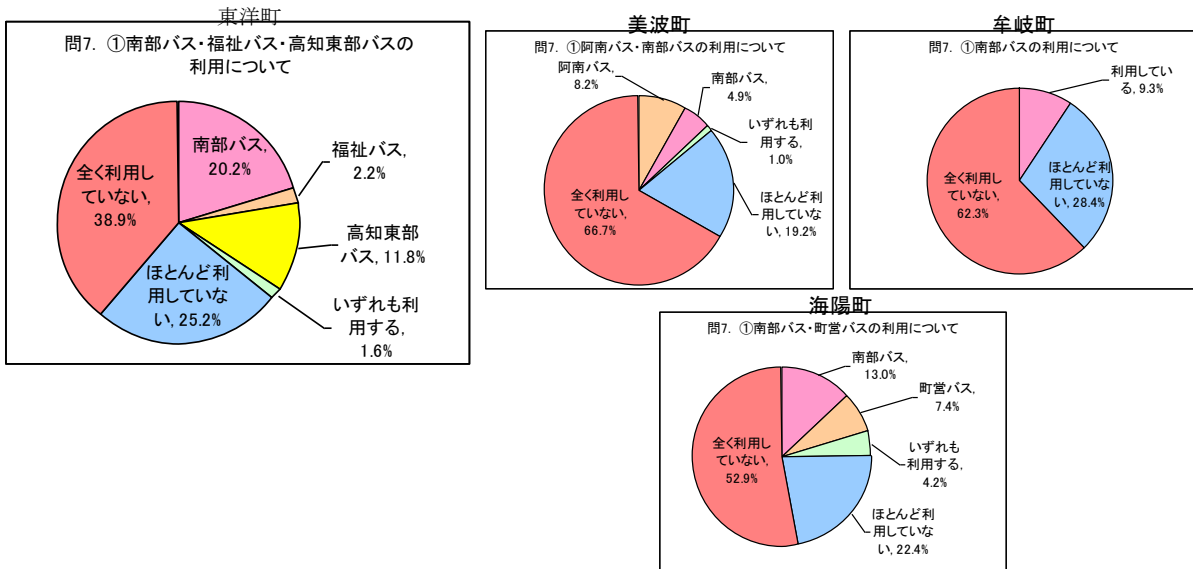
甲浦から徳島迄、乗りかえなしのが一番良い。とくに雨の時のが良い。
低料金で回数を増やし便利にする事が逆に利用者を増やし採算性を増やすのでは？

3-3. ワークショップより（抜粋）	
	運行に関して乗継を少なく 鉄道利用、乗換えを少なく 乗換無しにしてほしい
	鉄道利用は切符が買いやすいように

2) 路線バスについての課題

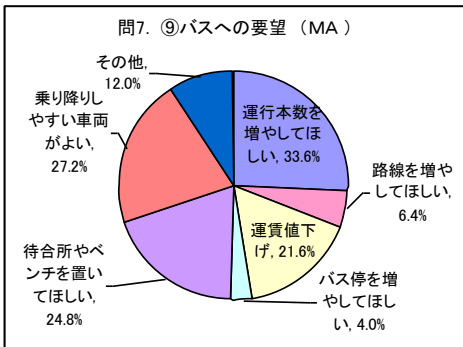
①バスの利便性の向上など（増便、料金値下げ、目的地までのアクセスの改善・待合所やベンチの整備、目的地別のバスの運行など）

3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）集計・分析結果



3-1-1. 公共交通に関するアンケート（全戸アンケート）自由記載欄より（抜粋）	
	通学と病院と買物ルート専用バスの運行でドア-to-ドアがあればと思いますが。
	町内の場合、家の近くから目的地まで（病院、スーパー、銀行等）運んでくれるのがいいと思う。

3-3. ワークショップより（抜粋）	
	甲浦駅までの交通手段の確保
	駅までの交通手段の確保
	山間部は乗合タクシー、中心部はバス





### 4-3. 観光に関して

徳島県観光統計によると、平成 19 年に県下の観光地を訪れた観光客は、13,566 千人で、うち日和佐方面には 10%の方が訪れ、また、調査手法は違うものの、高知県観光統計によると県外客の宿泊は、東洋町から芸西村にかけての東部地域に、約 7%が宿泊している。

#### ①観光における阿佐東地域の認知度

徳島県内の観光入り込み客は、鳴門周辺が 42%、徳島周辺 30%、剣山祖谷 31%と続き、日和佐などは約 10%と、他の地域と比べて、観光客に対する認知度は低いものとなっており、東洋町においても、同様と考えられる。

このことは、観光事業者に対するアンケート結果からも明らかで、その回答の大部分から「阿佐東地域の認知度の低さ」についての回答であった。

しかし、阿佐東地域には、年間数十万人の方が訪れる「四国八十八ヶ所霊場薬王寺」をはじめ、貝の博物館モラスコむぎ、竹ヶ島海中公園、生見のサーフィンビーチ、さらには室戸阿南海岸国定公園に指定されている青く美しいリアス式海岸などの名所旧跡があり、体験型観光やアウトドアスポーツの振興にも積極的に取り組みを進めているところでもあり、これらの地域の魅力や取り組みにより、認知度をアップし、観光交流を通じた地域公共交通の活性化を進めていくことが重要である。

#### ②阿佐東地域における地域公共交通の利便性の確保

観光客が利用する交通機関は「自家用車の利用」が最も多く、県内全体では 53.4%で、特にこの阿佐東地域においては、今回実施した移動手段に関するアンケートの結果、72.8%という非常に高い割合となった。

車を利用する理由としては、「バス・列車の便数が少ない」33.3%、「交通手段の情報を得るのが困難」27.3%との回答であり、今後、阿佐東地域以外からの観光客に、圏域内の公共交通機関を利用してもらうためには、乗り継ぎの改善や観光ルートの設定、イベント等との連携、情報発信等、利便性の確保が課題である。